

# 説明・記載例 (調停申立書・貸金)

- ①提出先の裁判所名を記載してください。  
②調停事項の価額及び手数料額は相手方に請求する内容によって決まります。

申立人や相手方が法人の場合には、法人の本店所在地、法人名、代表者の資格、氏名を記載してください。

【例】

〇〇市〇〇町〇〇番地  
申立人 〇〇株式会社  
同代表者代表取締役 〇〇〇〇  
〇〇市〇〇町〇〇番地  
相手方 〇〇株式会社  
同代表者代表取締役 〇〇〇〇

申立書とともに提出する書類の名称を記載してください。  
ここに例示されているような書類があれば該当する「」をレ点でチェックして、その他の書類があれば空欄の「」をレ点でチェックして、書類の名称を記載してください。

調 停 申 立 書

令和 ●●年 ●●月 ●●日

●●●● 簡易裁判所 御中

事件名 貸金 請求調停申立事件  
調停事項の価額 金 ●●●●●● 円  
手数料額 金 ●●●●●● 円

〒●●●●-●●●●  
住所(送達場所) ●●●●県●●●●市●●町●●番●●号

申 立 人 甲野 太郎 (甲野印)  
電 話 ●●●●-●●●●-●●●●●●  
FAX ●●●●-●●●●-●●●●●●

〒●●●●-●●●●  
住 所 ●●●●県●●●●市●●町●●-●●-●●

相 手 方 乙野 次郎

〒●●●●-●●●●  
住 所 ●●●●県●●●●市●●町●●-●●-●●

相 手 方 丙野 三郎

添付書類  
 金銭借用証  登記事項証明書

## 【留意事項】

申立書は、裁判所用と相手方用として、正本、副本の2部を提出してください。  
相手方が複数の場合は、相手方の数+1となります。

申立書の作成日を記載してください。

- ◎調停を起こす方(申立人)の住所、氏名、電話番号、FAX番号を記載してください。
- ◎印鑑は、認印(スタンプ式不可、法人の場合なるべく代表者印)でも結構です。  
押印は朱肉をご使用ください。
- ◎申立人複数名が1通の申立書で調停を申立てる場合は、この欄をさらに書き加えてください。
- ◎裁判所からの書類を住所以外に宛てて送って欲しい場合には、「(送達場所)」の記載を削除し、別途、送達場所等の届出を行ってください。

調停を起こす相手方の住所、氏名を記載してください。

## 説明・記載例 (調停申立書・貸金)

### 申立ての趣旨

相手方【ら/】は、申立人に対し、【連帯して】次の金員を支払う。

金 ●●●● 円

【上記の金額/上記の金額のうち金 ●●●● 円】に対する、  
令和 ● 年 ● 月 ● 日から令和 ● 年 ● 月 ● 日まで年 ● %の割合による  
金員

【上記の金額/上記の金額のうち金 ●●●● 円】に対する、  
【令和 ● 年 ● 月 ● 日】から支払済みまで年 ● %の割合による金員

との調停を求める。

利息の支払を求める場合には、この口をレ点でチェックし、いつからいつまでの利息を求めると、その利率を書いてください。

遅延損害金の支払を求める場合には、この口をレ点でチェックし、いつからの遅延損害金の支払を求めると、その率を書いてください。  
遅延損害金の支払を、返済期の翌日から求める場合はその日付を書いてください。

「申立ての趣旨」には、あなたが調停手続で、どのような解決を求めると、その結論を簡潔に書いてください。

# 説明・記載例 (調停申立書・貸金)

相手方に金銭を貸し付けた日

相手方に貸し付けた金額(元本)

貸し付けたときに遅延損害金の支払を約束したときは、「あり」の口をレ点でチェックし、その率を( )内を書いてください。遅延損害金の定めがないときには、「なし」の口をレ点でチェックしてください。

返済金の充当関係など、特に約束したことを書いてください。

一部の返済があったときは、別紙にその年月日と金額を書いてください。また、この金額を元本、利息、遅延損害金のいずれかに充当したかが明らかなきは、その内訳も書いてください。

相手方が返済しない理由など相手方の言い分や、この紛争について他に参考になることを書いてください。

## 紛争の要点

1 申立人は、相手方【ら/乙野 次郎】に対し、以下のとおり、金員を貸し付けた。

(1) 貸付日 令和 ●年●月●日

(2) 貸付金額 金 ●●●●円

(3) 利息の定め あり(年●%)

なし

(4) 返済期の定め

あり(令和●年●月●日)

なし(令和●年●月●日、令和●年●月●日を期限として、返還の催告をした。)

(5) 遅延損害金の定め あり(年●%)

なし

(6) 書面による連帯保証

あり 連帯保証人【(相手方 丙野 三郎 / )】

なし

(7) その他の特約

返済金は、元本、利息、遅延損害金の順に充当する。

2 相手方【ら/ 】は、上記貸付金について、  
【全部返済していない/別紙のとおり返済した】。

3 貸金の残額

元本 ●●●●円

利息・損害金 令和●年●月●日から

4 調停申立ての理由

支払いが延び延びになっている。

相手方が借りたこと(保証をしたこと)を争っている。

残っている貸金の額に争いがある。

その他 ( )

(その他の参考事項は以下のとおり)

相手方は、自動車の修理代金と相殺したと言って支払おうとしない。

「紛争の要点」には、あなたと相手方との間で、紛争となっている内容を、具体的かつ簡潔に書いてください。どのような事実経過があったのか、その結果、法律的にどのような解決を求めめるのかを書いてください。

貸し付けたときに利息の支払を約束したときは、「あり」の口をレ点でチェックし、その利率を( )内を書いてください。利息の定めがないときには、「なし」の口をレ点でチェックしてください。

元本や利息の返済期を定めたときには、「あり」の口をレ点でチェックし、その年月日を書いてください。元本の返済期とは別に利息の返済期を定めたときには、例えば、「ただし、利息は毎月末日払い」などと、利息の返済期を付記してください。返済期を定めなかったときは、「なし」の口をレ点でチェックしてください。その後、返済を申し入れたことがあれば( )内にその日付を書いてください。

◎元本:貸金の残額を書いてください。  
◎利息・損害金:相手方がいつの分から支払をしていないかを書いてください。

